

弘法大師一二五〇年大祭

記念献句入選句

成田山貫首 岸田果風選

学僧の青々頭薄着行く

持て余す一病持ちて梅雨に入る

本堂の緑青ふきし屋根に鳩

梅雨入や濃きコーヒーをいれる朝

五月雨の音が光に交はる朝

薰風や墨の香りの届きたり

風薰る鯉の背にゆる浮御堂

新緑や大師の恵み常しなへ

手渡すも受けるも主役薔薇の花

新茶飲む所作の端麗四疊半

義弟よ眠る山麓富士桜

卒塔婆を上げ来し坂のホトトギス

父の日や音の外れた黒田節

誕生祭奉げて一山風薰る

あらざるの迷の輝き金平糖

謙摩太鼓幡幡搖らし天を衝く

昏食は鰻と決めて席八つ

大塔へ登る急磧青葉風

仁王門潜り登れば寺薄暑

納経し仰ぐ大塔夏の空

木々の葉の揺れて立夏の風匂ふ

声明の声際やかに夏の寺

参道の店のメニューに夏料理

大塔に一声かけてほどどきす

広き園若葉風受け歩す清し

東密の開祖祝賀や寺若葉

母馬のまなこ優しき春の牧

夏兆す雲の墓標といふ言葉

鯉のぼり遠き空まで泳ぎゆかむ

空海の今に語らく桐の花

空と海裏字ひびく五月かな

ケ・セラセラ浮世に搖れんあめんぼう

奥津城へ踏ますに行けぬ着蓑畠

山内の路また径や若葉風

老親と巡る四国路五月晴

成田山堂宇巡りて鍾かな

新樹光おん目慈愛の大師さま

朝焼の川面をにるクルーズ船

相澤重廣

相澤三枝 青野清一

朝岡恭子 池西季詩夫

石橋 渡 伊勢竊大

伊藤 隆 今田素士

内田秋歩 浦邊春子

榎本桂子 遠藤美津子

大川景光 大川崇視

太田盛親 大熊周一

岡部千代松 大熊幸夫

小川とらみ 加藤醉歩

神崎かずお 金子睦男

川崎直子 加藤よね

木下昌子 神崎かずお

君島輝雄 岸 節子

北川昭久 向後 寛

小杉英子 小林清華

齊藤フチ子 櫻本道子

佐瀬輝夫 佐藤 時

澤野壽一

水溜まりびよんど飛び越え五月晴れ

白戸ちか 杉崎淑子

成田発飛機が飛び込む雲の峰

鈴木英一 新樹光水音透ふ眞の院

父を追ひたけのこ見つけ笑つた日

鈴木京子 鈴木としう

総門を越えて不動へ若葉風

句作りの中の極楽南風吹く

南無大師唱へる日々や夏に入る

やさしさが朴の花に似大師さま

兩の手を合はす御影に風薰る

高橋 雄 高橋和江

大伽藍若葉の中にうづもるる

鈴木遊琴 鈴木南子

万綠に娘らの合唱仏贊歌

そよ風になびける日差し夏のれん

立石肇子

沢の水吸ひていくつも青胡桃

成田屋の後継ぎ誕生梅の花

草木を語る僧侶の目の涼し

初鰹目指す今日より親子船

辻村照子 田中敬子

一山の幾星霜の苔の花

法帖の書聖空海夏木立

春慶を纏ひ大師の旅衣

人生も急がば戻れ蝸牛

大塔の光る九輪や風薰る

大師誕誕生日に入る

老いてまだ玉葱贈る母であり

蝸牛垣根越えゆく達瀬かな

この雨に悲鳴と見れば雨蛙

九十路なりて島で草を引く

飛驒めぐり訪ふ先さきの青嵐

孤を描く九十九里浜卯浪寄す

青もみじ訪ねてみたき成田山

五月晴宗祖しのびてありがたや

青葉して祖師讚歎の誕生会

父の日や存命なれば百は超え

げんげ田や休息も思案段取り

吉永克喜

山口福子

山口照額

村田智恵子

室井正壯